

健康で心豊かな地域づくり

たかす

第199号
令和4年1月18日



千種町鷹巣自治会

謹賀新春



お正月が過ぎてからでは間抜けの感ありますが、『元日』と『元旦』の違いを述べてみます。

「元旦はよく晴れたため初詣の客で賑わいました」とニュースで、「元旦は寝正月を決め込んで、一日家でゴロゴロしていた」と等と言いますがいずれも『元旦』という言葉を使っているのです。本来『元日』というところを『元旦』と誤ってしまっているのです。

「元日」は一月一日のことを指すのに対し『元旦』は一月一日の朝方のみを指す言葉なのです。年賀状にも『元旦』と書くこともありますが、考えものです。また『元日』と書く人があるけれども、これも誤り。『元旦』も『元日』もそれだけで、一月一日を指しているのです。来年の賀状を書く時の参考にと老練ながら一言……。

鷹巣は、いま？

自治会告知板

鷹巣自治会長 村上伸和

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

今年も雪が多く降り、年末年始として先日の大雪で、雪かきに苦勞されたことと存じます。まだまだこれからも寒波が続くと思われまので、どうぞ無理をせず体調には気をつけてお過ごしください。

新型コロナウイルスについては、秋口から随分と収まってきたようで、少し安心しておりましたが、年明けから感染者が急拡大し、オミクロン株が猛威を振るってあります。ついに第六波に突入しこの先一体どうなることかと心配するところです。
三回目のワクチン接種が三月末から始まる予定ですが、これ

まで同様に「マスクの着用、手洗いの実施、三密を避ける」等の感染予防対策をしっかりと取り行なっていかなければなりません。コロナとの戦いはまだまだ続くようですが、それに打ち勝って何とか本年は良い年となり、一日も早く以前の生活に戻れるように切に願っております。

鷹巣活性化便り

活性化委員長 村上廣恭
皆さん明けましておめでとうございます。

令和四年はコロナ騒ぎも小康状態で明けましたが、油断はできません。今年も活性化活動に変わらぬご支援ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

施設の老朽化などのマイナス要因が増えつつある中、お陰様で施設利用のお客様は年々増えつつあります。これはスタッフ一同の親身な対応は勿論ですが、利用者が村内散策時に出会った住民と交わす言葉の一言一句にほんわかとした自分の郷里に帰ったような安心感を覚える人が多いからではないかと思われます。しかもその思いが利用者の口から知人へ、そして次の知人へ……そんな繰り返しで今日の結果に現れているのでしよう。

開設以来十一年目を迎えますが、校舎以外は古い設備をそのまま使っていますので、修繕が必要な部分も当然出始めました。今急いでやりたいのは体育館の雨漏りです。

市及び県民局へは何度か足を運び相談し、前向きな回答を期待しましたが、ハードルは高くなかなか難しい感じがします。雨漏りは待ってはくれず、その度に傷は広がる一方です。

ではなぜ体育館にこだわるのか。それはすべての施設が一体となつて機能しているからです。また、地元の万一の際の避難所としての内容によってはスポーツトレーニングや講演会等泊まり兼用で利用される場合も多く、利用価値は大きいと言えます。

そんな訳で修繕費が上がらない内に手当てがしたいのです。方法としては、行政に頼る前に地元が声をあげ動き出すことが先決かと考えます。方針が決まれば地元有志のみならず、利用者、事業所、関係各位にお声かけして協力をお願いしたい所存です。その節には皆様方のお知恵をお借りしたいと思ひます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

コロナ禍にもめげず

宿泊施設支配人金本秀夫
明けましておめでとうござい

ます。

年末から年始にかけての大雪は鷹巣にも五〇センチ以上の積雪をもたらしたかと思われます。

元日は老人クラブによる八幡神社への初詣でしたが、豪雪により参拝者は半数程しかなくて寂しい思いをしました。そんな中、運動場を見て驚きました。テントが張られ、大勢のお客様が雪だるまやかまくらを作つて新年を迎えられているではありませんか。

年末からお正月にかけて一五組の予約があり、雪でキャンセルはあったものの七〇名のお客が学校に宿泊し大雪を楽しまれたのです。正月といえば家族揃って温かい炬燵の中でみかんを食べたりカルタを取ったりする……こんな話は全く昔話になつてしまいました。こんな寒い

不便な鷹巣へ正月にわざわざ何故？と思われますが、今の世の中何不自由なく楽な生活ができます。これに反し、あえて不自由な生活を求める、そんな価値観をお持ちの方が増えているようです。
(ウラハ)

